博士研究員の町田宗仁と申します。昨年６月より厚生労働省からの派遣で、フィリピンのマニラにある WHO 西太平洋地域事務局(WPRO)に勤務しております。現在の業務は、日本から WPRO へ届く予算の管理、事務局が抱える日本案件のリエゾン役です。マニラは福島とボストンの中間地点ではありませんが、シャトル便の「寄り道編」としてこの度、投稿いたしました。

さて、フィリピンと聞くと、どのようなイメージをお持ちになるでしょうか。治安の悪さ、格差社会、スモーキーマウンテン（既に撤去）など、一般的には決してよいイメージではないかもしれません。しかし、首都圏マニラから１時間も車で離れれば、のどかな農村風景が広がり、3 時間ちょっとで美しいビーチリゾートにもお目にかかることが出来ます。飛行機を使えば、観光地で有名なセブ島までは、マニラから１時間です。

街中を走る乗り合いトラック・ジプニー

セブ島のリゾート

フィリピン人の日常生活を見るに、家族を大切にする文化があるということが、よくわかります。常に家族の心配をしていて、例えば、当地採用のフィリピン人スタッフの身内が急病になったら、縦割りの WHO オフィスであっても、同僚がバックアップに入って休暇を取りやすくしています。また、休日に外食をすると、大家族でお誕生日会を開いているのを頻繁に目にします。「家族」という単位の重要性を再認識させられます。

さて、こちらに赴任して一番驚いたことがクリスマス関連行事です。フィリピンでは 10 月上旬から１月初めにかけて、クリスマスの飾り付けが街で見られます。とにかく派手好きなフィリピン人。日本のような静かなホワイトクリスマスとは無縁です。特に 10 月中～下旬は、ハロウィンなのかクリスマスなのか、飾りの区別が付きません。どこで製造されたかわからないような電飾が時々火事を起こしてニュースになります。11 月末からクリスマスの前週にかけて、いたるところで盛大にクリスマスパーティーが開かれます。そのため、この時期は出費がかさむようで、とにかく ATM には人の行列。夕方 ATM へ行っても、日中に全ての現金が引き出されてしまい空っぽ、ということは、パーティーシーズンには珍しいことではありません。しかし 12 月 25 日午後になると、モードが切り替わってアフタークリスマスセールが始まります。

高級住宅街にあるクリスマスツリー

ショッピングモールの電飾（これは安全）

当地に居ると季節感がよくわからなくなります。いわゆる日本の夏休みは、こちらでは3月下旬から。冬という概念がなく、11月から2月までの乾季が終わると、もう夏の到来。2月14日のバレンタインデーセールが終わると、デパートは「サマーセール」一色。デパートの入り口に立っている警備員さんもアロハシャツを着ています。そして5月から雨期に入るそうです。

日本の良さを再認識しつつ、楽天的なフィリピン人からしか学べないことを吸収できればと思いながら、今日もルソン島で仕事をしております。

ショッピングセンター入口（2013年2月24日）

マニラ首都圏の軽井沢・タガイタイ